

令和3・4年度 第2回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和3年9月21日（火）午後1時30分から3時28分

開催場所 高崎市六郷公民館 講義室

議題 1 六郷公民館の取り組みについて

公開・非公開区分 公開

出席委員（15人）

前島朗委員 ・ 串田昭光委員 ・ 三澤憲一委員 ・ 林恒徳委員
湯浅賢一委員 ・ 山崎紫生委員 ・ 小見勝栄委員 ・ 植原孝行委員
戸塚光久委員 ・ 山口堅二委員 ・ 中司恵理委員 ・ 丸茂ひろみ委員
岡田文男委員 ・ 秋山美和子委員 ・ 小高広大委員

欠席委員（5人）

櫻井怜委員 ・ 星野雅代委員 ・ 小屋美香委員 ・ 内田祥子委員
新利恵子委員

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

藍美香中央公民館長・茂原久美子社会教育課長・齋藤崇夫教育担当係長
江黒昭三郎六郷公民館長・高橋勉次長・千保木優次長・大村政彦次長
角田潤次長・武政文隆次長・江積利雄次長・黒田英男六郷公民館主事
木村智美主査・古川和江囑託

傍聴定員 5人

傍聴者数 0人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

令和3・4年度 第2回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

1 六郷公民館の取り組みについて

会長： それでは議事を進めさせていただきます。

本日は「六郷公民館の取り組みについて」ということで、六郷公民館長さんと主事さんからご説明をいただきます。説明をいただいた後、質疑応答をさせていただきます。その後、施設内の視察をしたいと思っております。そして視察の後、こちらの会場に戻りまして、事業の取り組みや施設を視察したことを基に委員の皆さまからご質問やご意見をいただきたいと思っております。

前回の審議会は、第一回ということもありまして、委嘱状の交付や前年度の答申の説明が中心でしたが、今回は二回目の審議会ということで実際に地区公民館におけるコロナの影響を含めて公民館活動のお話しが伺えればと思っております。

また、六郷公民館では公民館運営審議会での提言を基にした事業も行われています。この運営審議会の提言は前会長さんを中心に取りまとめをして、具体的に地域おこしをするにはどのようにしたら良いかということをご提案しています。その活動について今日はどんなお話が聞けるのか楽しみにしております。

では六郷公民館の取り組みについて、ご説明をお願いいたします。

六郷公民館長： 本日は六郷公民館にお越しいただき誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。公民館運営審議会の皆さまには日頃より大変お世話になっております。

六郷公民館では隔年で出されております審議会の答申を参考に課題などに取り組んでいますとともに、平成29、30年度の審議会からの提言に基づきまして学校との連携や史跡巡りなど今までになかった取り組みも行っており、これから町内でどのように継承したらよいかという話し合いももっております。この提言のお陰で六郷地域の地域活動が今までよりも前進したような感じがしております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

それでは私達六郷地区の案内をさせていただきます。六郷地区は名前のお通り、上小鳥・下小鳥・筑縄・上小埜・下小埜・上並榎の6つの集落が合併して六郷村を形成しました。昭和26年に高崎市に合併して六郷地区になったわけです。その頃は高度成長期で人口も子供の数も増えまして、六郷小学校から北部小学校へ半分分かれました。その六郷地区の中心に六郷公民館があります。六郷小学校の周りには消防署や消防分団、長寿センター、市民サービスセンター、農協があります。尚且つこども園が2園、保育園が3園ございます。そして公園が16か所

あり、災害の時の町内の一時避難地となっております。

六郷地区の位置ですが、旧市の北西部に位置し、北に長野地区、東に中川地区があります。主要道路に関しては、東側に国道17号線があります。資料で配付させていただいた「六郷散歩」を見ていただくと分かりやすいと思います。見ていただくと分かる通り、地区を分断するように環状線がはしっております。世帯数は約1万ちょっと、人口数は約2万ちょっとです。公民館の利用者数は昨年度が約1万人。今までの統計では例年2万人以上が利用していましたが、去年、今年とコロナ禍で利用者が減ってしまいました。それでも半分の約1万人の人が利用していただいております。

これから公民館の利用を含めまして、事業につきましては主事の方からご説明申し上げますけれども、その話を聞いていただいて、ぜひご指導をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

六郷公民館主事： それでは六郷公民館の事業について説明させていただきます。お手元の資料に基づきまして、前年度の事業を中心に説明させていただきます。

まずは基本方針と重点施策についてですが、基本方針は「地域の人々が楽しく集い、学ぶ交流の場として地域づくりの実践に活かすとともに、地域の各団体と積極的に交流し、連携を深め魅力ある公民館づくりを推進する。」としています。ポイントは、「地域の各団体と積極的に交流し、連携を深め」という点です。地域の主体となって動く各団体と交流することにより、地域を把握し、問題を話し合い、解決するよう働きかけることが方針となっています。つまり、問題解決の主体は公民館ではなく、地域の各団体で、公民館は問題解決できるよう働きかけるのが役割という事です。

重点施策として6点上がっていますが、ポイントはエ、オ、カです。エは学童、オは小学校、カはサロンとの連携を重視しているのが現れています。

続いて事業実績について説明します。ここでは、各講座の狙いを中心に説明させていただきます。

まずは、ライフアップ推進事業です。子育て支援・家庭教育充実事業は、乳幼児を育てているお母さんの支援を主目的にしております。この講座の参加者をママサロンへ誘導する狙いもあります。また、前年度はお試しで父親の育児参加を促す講座もやってみました。

少年少女体験活動支援事業は、長期休みの学童を支援しつつ、効率よく子どもたちを集め、学習してもらうのが目的の講座になっています。

社会課題を考える事業の「パステルアートってなに？～サロン体験編～」は町内公民館で行っている高齢者向けサロンで、広めると良いのではないかとというネタを体験してもらうのを目的としている講座です。

続いてキャリアデザイン支援事業です。子どもや親子の課題体験教室は、平成29・30年度の高崎市公民館運営審議会提言にある地域資源資料集を用いて、六郷小学校3年生の総合的な学習の時間に連携した講座となっており、後程、主な事業紹介で詳細を報告させていただきます。

日本文化や外国文化の理解講座の「しめ縄づくり」は、地域の神社(幸宮神社)の総代会との連携事業です。「水墨画体験教室」は、小さなコミュニティを作り上げる、つまりサークルを立ち上げるのを主目的とした講座で、水墨画のサークルが無事誕生しました。

能力開発や職業意識の高揚講座は、地域の人材の有効活用を目的とした講座で、地域の方を講師にして、今後、活躍の場が広がるようにするのを狙い、開催しました。

最後に地域づくり支援・ボランティア養成事業です。「みんなでコーラス 素敵なハーモニー 2020」は、六郷地区芸能発表会に出場するのを目的とて毎年開催している講座で、7回目になります。地域の皆さんが一つの目標を目指して共に励み心を合わせる地域の交流の場として、重要な役割があります。しかし、コロナにより目標である芸能発表会を開催するかが最初の問題となりました。地域づくり活動協議会文化振興部会長が、「発表の場がなくなると、活動がなくなり、続ける意気込みも消えてしまうので、出来る限り開催する方向で動く」と決断したことにより、当講座も開催の方向で検討を始めました。コーラスは感染拡大の可能性が高いと言われていましたので、講師と感染防止対策を十分に検討した結果、リスクは軽減できると判断し、開催にこぎつけました。なお、当講座がコロナ禍での最初の講座であり、この時の経験から、講座開催のメリットとコロナの感染リスクを比較して開催するかを決める開催可否の判断方法を確立しました。

続きまして令和2年度の事業のポイントについてお話しします。やはり、最大のポイントはコロナの感染対策です。飛沫拡散防止のためのマスクの着用、3密を避けるため屋外で出来るものは屋外で、屋内の場合は通常の半分の定員で換気を行なって実施し、実施後は触れた机、椅子の消毒を行いました。また、地域の人がきちんとコロナの感染予防が出来るようにするため、正しい知識をきちんと知ることが重要と考え、公民館だよりで、たびたびコロナに関する知識を周知しました。参考資料の公民館だより令和2年4月特別号を参考にしていただければと思います。

講座の参加者の傾向としては、地域外の参加者の割合が増えました。原因としては、地域の人たちはコロナを警戒して外出しない人が増えて参加率が低下し、地域外の人たちで警戒しながらも活動を希望している人は、活動の場を求めて他の地域に進出し、結果、地域外の参加率が高まったからということが参加者からの話で見えてきました。また、参加しているのは公民館経験者で、すでに公民館

活動の楽しさを知っている人たちで、新規の人を公民館に呼び込むのは、非常に困難な状況と感じました。

講座をなかなか企画できない状況でしたが、逆に予算的には余裕が生じたので、普段できない、参加者が確保できるかわからない現役世代の男性をターゲットにした、男性の育児参加を促す目的の講座を開催しました。結果的には夫ではなく、妻が申し込んで参加している人がほとんどでしたが、現役世代の男性が参加できる日時が、ある程度目途が立ったのは、大きな収穫でした。

令和2年度の事業で最大の成果は「町探検！もっと知りたい私たちの町」です。後程、主な事業紹介で、詳細を説明いたします。

続いて、公民館の利用状況を説明します。令和2年度は公民館もコロナ禍でどう運営すべきか手探りだった年ですが、地域もサークルも同様でした。結論から言うと、利用状況はほぼ半減です。数値は資料を見ていただくとして、数値には表れない、私が見聞きした状況をお話しします。

去年のゴールデンウィーク前後の休館で、サークル活動は休止になり、活動が本格的に再開し始めたのは9月頃になってからでした。久しぶりに来館した地域の人たちの中には、春には普通に歩いていた人が、腰が曲がり、危なげな足取りで歩く人が何人もいました。外出機会が減ったことにより、フレイル（体が弱い健康な状態と要介護状態の中間の状態）になってしまったようなのです。公民館でのサークル活動は、地域の皆さんの交流の場であると同時に、健康や気力を維持する場でもあるということを強く意識しました。コロナの感染防止は確かに重要ですが、それ以外にも重要なことはあります。その点をふまえ、コロナの感染リスクと天秤にかけて、やるかやらないかを判断できるよう地域を支援することも公民館の役割ではないかと考えます。そのためには、活動の場を保証するのも重要と考えます。

続きまして、六郷公民館の施設について説明させていただきます。地域の皆さんが活動する場の1つである公民館ですが、昨年度は、研修室、図書室、事務室、実習室の4つのエアコンが故障しました。中央公民館からの支援で、実習室を除く3部屋のエアコンを交換修繕し、実習室は今年度、交換修繕していただきました。その他にも折りたたみイスの老朽化が進んでおり、中央公民館との相談により出来る範囲で交換しました。予算については大変厳しい中ではございますが、利用者の皆さまに安全・安心にこの公民館を使っただけよう努めてまいります。

最後に、主な事業として「町探検！もっと知りたい私たちの町」をパワーポイントを使って紹介させていただきます。

では昨年度の六郷公民館の主な事業紹介をいたします。「町探検！もっと知りたい私たちの町」は、上小鳥町編、下小鳥町編、筑縄町編の3つの講座に分かれ

ており、それぞれの町の歴史、環境、安全に関する地点を見聞きする講座です。この講座が生まれたきっかけは、2つありました。1つ目は平成29・30年度の高崎市公民館運営審議会の提言の際に、テストケースとして作成した六郷の「地域資源資料集」。2つ目は、令和元年度に行った、課題研究「学校との連携の現状と今後の連携の在り方に関する考察」です。この課題研究において、実際の連携の在り方の提言で、「地域資源資料集」を利用した事業案をあげさせていただきました。

講座を企画した際のポイントについて説明させていただきます。

学校では学習指導要領に基づき教育活動を行っています。連携する公民館の講座も、その教育の目標達成に向けた価値を提案することが必要と考えました。そのため、学校、公民館両者の学びを高めることができる単元・題材を、年間指導計画を基に検討した結果、候補にあがったのが、1年生の生活科や総合的な学習の時間での「昔の遊び」、3年生の総合的な学習の時間での「新発見！六郷の町」、5年生の総合的な学習の時間での「災害から身を守る備えをしよう」でした。六郷小校区では前から防災に力を入れておりましたが、前年度に作成した「六郷の地域資源資料集」の有効活用や地域との交流や地域の継続性などの効果も踏まえ、3年生の「新発見！六郷の町」との連携を学校に提案することにしました。

続いて、学校と公民館の意図や目標を具体化するために、授業構想について単元計画（指導と評価の計画）を基に、学年主任と協議を行い、事業の内容を明確化していきました。当初、学校、公民館両者の目的を合わせる手段として年間指導計画を用いましたが、副次効果として継続性が増しました。これにより、子どもたちに、安定した学びを提供する見込みがたちました。

さて、年度当初になり、その年の学年主任の先生と打合せをして事業をスタートしたかったのですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止で小学校の休校が続く、どのようなスケジュールで授業を進めるか、むしろ、いつ休校が終わるかもわからない状況に陥ってしまいました。いざ、学校が始まり、学年主任の先生に連絡を取ってみると、学校はさっそく、総合の授業の第一段階にあたる「子どもたちが地域の人たちから話を聞いて、地域のことに関心を抱かせる」取り組みの日程調整をしていました。そこで、急遽打合せを行ったところ、学校は授業時間短縮で、皆で学校の近場を見て回る授業が出来ず、夏休みに子どもたちが調べるテーマを決めるステップがなくなったので、それを公民館の講座により、カバーできると良いとの意見が出ました。そこで、当初は歴史、環境、安全のテーマ毎の講座を考えていましたが、全てのテーマを網羅した講座に変更しました。また、住んでいる地域をもっと知ってもらうため、町毎にコースを設定しました。

最終的に講座は、上小鳥町、下小鳥町、筑縄町の知りたい、伝えたい、気づい

てほしい歴史・文化、環境・自然、安全・安心に関する、それぞれの地点を地域の人から話を聞きながら見て回るものになりました。

参加募集は、六郷小学校3年生全員に各担任を通して各コースの申込書を渡してもらいました。その際に、夏休みの自主勉強に関する講座と説明してもらい、参加意欲を高めてもらいました。さらに、申込書に「保護者の参加は任意ですが、写真撮影など、お子さんの調査をお手伝いするため、ぜひ参加してください！」と書き、保護者の講座への参加を促すよう仕掛けをしました。これにより、現役世代の学習にもつながるようにしました。

講座当日は、天候にも恵まれました。8月3日上小鳥町編の上が「ごみステーションの監視カメラ」の説明を聞いている様子。下が「諏訪神社」の参拝の様子。8月5日下小鳥町編の上が「ごみステーションでマナーが悪いごみが出されている写真」を見ている様子。下が「幸宮神社でお手水のやり方」を体験している様子。8月7日筑縄町編の上が「太師堂」の像を見ながら説明を聞いている様子。下が「忠魂碑」の説明を聞いている様子です。地域の皆様のご協力のおかげで、途中で暑さにやられて気持ち悪くなってリタイヤした子が一人出たものの、大事なく行なうことができました。

ここで参加者の感想を紹介します。まずは、子どもの感想です。「最近の人たちは、お寺の意味をそんなに知らないので教えてあげたいです。みんなで守ってあげたいし、お寺をなくしたくないです。」続いて保護者の感想です。「住んでいるのに知らないことがいっぱいです。このような機会がなければ知ることができなかったもので、参加してよかったです。」このように、地域の人から「伝えたい」「気づいてほしい」ということは、子どもたちや保護者には伝わったと考えます。

子どもたちの学びは、自分たちが学んだものをまとめて発表することで完結しますが、ここでも新型コロナの影響が現れます。

まず1点目は子どもたちのまとめ方です。本来ならば、同じテーマでグループを作り、それぞれ学んだことを出し合ってまとめるのですが、3密を避けるため個人でまとめることになりました。

2点目は、子どもたちの発表は、学校公開日に行う予定でしたが、学校公開が中止になり、発表する場がなくなってしまいました。それでは、子どもたちがまとめた成果を実感する機会が失われてしまうので、公民館で別の方法を用意することにしました。行なったのは、公民館を通した紙面でのやりとりです。2つのアプローチを行ないました。

まず1つ目は、子どもたちのまとめものを冊子にして、地域の高齢者向けサロンや町内会の集いで読んでいただき、感想を書いていただきました。2つ目は、子どもたちのまとめたものを公民館内に掲示して、感想を書いていただきました。このように、子どもたちのまとめたものを見ていただく取り組みと、見た人に感

想を付せんに書いていただく取り組みを行ったところ、想定外の効果がありました。それは、子どもたちのまとめを読むことにより、よその地域から移り住んだ人が地域を学ぶきっかけになったのです。こうして集めた地域の人たちの感想をとりまとめ、子どもたちに配布しました。

以上が、今回の事業の一連の流れです。

ここで、後日談をさせていただきます。まずは、昨年11月の話です。六郷小学校で公開授業研究会がありました。今回の取り組みについて学校関係者へ周知する良い機会だったので、掲示し説明させていただきました。さらに一緒に取り組んでいた中央公民館の教育担当の職員が、昨年12月に生涯学習フェスティバルで、今回の取り組みの事例発表を行いました。今回の事業の学校・地域・公民館の関係が分かり易いので、参考に発表の一部を読み上げます。「こう考えると、公民館はいわば仲人です。地域と学校の良いところ、地域の活動、地域の人、学校の活動、目標など、色々なものを見えるようにして、両者をつなげます。地区公民館の館長や主事は、地域の方と密接につながっています。中央公民館には教員がいますので、その強みを生かしてコーディネートできればと思います。でもその前提として、地域で魅力ある活動をしている方々がいなければつなげることができないわけです。また、学校の目標や地域の思いが無ければ、特に地域の思いが無ければ、学校のお手伝いで終わってしまうかもしれません。本日参加された方々は地域で様々な活動をされていると思います。「うちの地域には、こんないいところがある。こんな人がいる。こんな活動をしている。」という自慢できることがたくさんあると思います。それを学校教育にもつなげて、バラバラでやっていることが一つになったら、地域にとっても、学校にとっても、とても有意義なことです。学校と連携することは、学校を支援するという事だけでなく、必ず地域づくりにつながっています。ぜひ、その取り組みの意味を活動されている皆さん自身が感じていただければと思います。」

さらに本年度も進展がありましたので説明させていただきます。

1つ目は学校との連携案にあった、5年生の総合的な学習の時間の防災に関する事業を地域の防災士と共に行ったことです。2つ目は、長野郷中学校との連携を摸索し始めたことです。長野郷中学校区には、長野・北部・六郷の3つの公民館があります。連携は3館共同で行い、まずは長野郷中学校のニーズを確認しました。ニーズは2点あり、1つ目は「中学1年生を対象として、自分たちの生まれ育ったふるさとを知る「ふるさと学習」を行い、「地域愛」を育ていきたい」というもの。2つ目は「中学2年生対象として「地域に貢献できること」を体験し、「地域の一員としての自覚と、ふるさとを良くしていく心」を育みたい」というものでした。

続いて、地域のニーズを確認しようと各館の長野郷中学校区の町内会にニーズ

調査を行ったところ、うまくいきませんでした。うまくいかなかった理由は、地域と学校と公民館の連携関係にありました。六郷小学校の取り組みでは、学校と地域の間で公民館が立ち、積極的に企画・調整を行っていきました。しかし、うまくいかなかった地域では、すでに中学校と地域でつながりが出来ており、その間に公民館が割り込み形になってしまったのです。このような地域では、地域の後ろに公民館が控え、地域を支援しながら目的に沿うように促す方がうまく機能するとわかりました。今後、地域と学校と公民館の連携を他の地域で広めていくうえで、公民館が行なう「目標と手段をしっかりと分析し整える役割」を表に出して積極的に行うか、裏から支援するか、地域の事情を見定めて決める必要があるとわかったのは大きな収穫でした。

もう1点収穫がありました。町内会より、地域の事を説明する時のテンプレートがほしいとの要望が上がったのです。六郷小学校での取り組みにおいても説明の質の差が課題になっていましたので、良い機会なので「地域説明文の作成の流れ」を作りました。

残念ながら、長野郷中学校との連携は、新型コロナウイルスの緊急事態宣言の対象地域になったことにより、学校外の授業の中止が決定したため、来年度に再度挑戦することになりました。

六郷小学校の取り組みにおいては、説明する多くの団体から説明の原稿を提出していただき、その原稿を元に、こうするともっと伝わりやすいというサンプルを「説明文作成の流れ」を添えてお返ししたところ、説明がかなり改善されました。また、読み原稿により町内会の説明者がいなくなり、うまく説明できなくなるという事態を未然に防ぐことができたと考えます。お手元の参考資料2は、六郷小学校3年生の「町探検！」向けの「説明文作成の流れ」になっておりますので、後でご覧になっていただければと思います。

以上で、六郷公民館の主な事業の紹介を終了いたします。

ご清聴、ありがとうございました。

会長： 館長さん、主事さんありがとうございました。分かりやすく地域の状況から施設の活動状況、学校との連携についてお話しいただいて、大変興味深く聞いておりました。そして成功事例ばかりではなく、うまくいかなかったことを「こうしたら良かった」ということを提示されていて大変魅力的なお話を伺いました。今の館長さん、主事さんの話をいただいて、委員の皆さまからもっと詳しく聞きたいというようなことがありましたらお願いします。

観光ガイドの会選出委員： 今の話の中で、夏休みに行った町探検の講座は、だいたい時間はどのくらいかかったのか。また説明する講師側の方々は地域の役員だけで

行ったのか、それ以外で説明（講師）をされた方がいたのか。六郷地域の3つの地域で行っていますが、それ以外の地域、例えば上小埜町など他の地域については今後予定があるのかどうか。また、内容が歴史や安全といった多岐にわたっておりますが、限られた時間の中でうまく説明できたのかどうか教えてください。

六郷公民館主事： まず、時間に関しては、だいたい90分～2時間くらいです。町ごとにコースが違いますので、町ごとに時間が変わります。今年回ったところで時間がかかったところは2時間少しかかりました。

地域の方の説明に関しては、説明場所ごとに1人のひとにやっていただいています。町内会の方で見ると、この事業でだいたい町内会ごとに2人～3人、場合によれば1人のところもありますが、出ていただいてこの地点はこの人、この地点はこの人、という形で説明者を替えて説明していただいております。

もう1点、上小埜町に関してですが、地域的に上小埜町全体が六郷小学校区ではなく上小埜町の一部が校区になっていますので、上小埜町で紹介したい地点が北部小学校区内だったり、スタート地点をどこにするかということもあり、コースを設定するのが難しいということで昨年度も今年度も行いませんでした。

会長： ありがとうございます。さらに具体的に様子が見えてきたような気がします。他にございますか。

学識経験者 A： 公民館が主になって夏休みに町探検を行ったわけですが、その後学校への情報提供などで学校側がどのような感想を持ったとか、例えば子どもたちから聞き取りをするなどフィードバックはあったのでしょうか。

六郷公民館主事： 子どもたちがどの程度理解しているかということについてのフィードバックはありませんでしたが、例えば進み具合が遅い子どもとかそもそも調べていない子どもに対して「公民館へ行けば資料がある」と促すことはしていたということです。講座の趣旨としては、本来夏休みに自分で調べなくてはいけないことを公民館がお手伝いするという事なので、公民館が前面に出て「講座を受けて」ということとは違うので、やらない子どもに対しての強制力はありません。ただ、来た子どもに対しては全力で協力しますというスタンスです。

少し話は逸れますが、講座後の学校との連携ですが、やはりまとめをどのような形で発表するかということが難しいところがありました。学校としては、自分の調べたことを発表するまでが学習です。発表する場が、昨年度はありませんでした。今年度はまだ調整中ですが、どのように発表の場を作るのかということをお学校と二人三脚で行っております。

会長： 他の委員さんはどうでしょうか。では施設を見ている間に意見をまとめておいていただいて、施設視察の後に、さらに質問いただければと思います。
それでは施設を視察させていただきますよう。

～ 館内視察 ～

会長： それでは後半の話し合いに入りたいと思います。
今日は館長さんと主事さんから六郷公民館の事業の話をしていただきましたし、施設を見させていただきました。これを受けまして、委員の皆さまからご質問、ご意見をいただきたいと思います。

市議会選出委員： 最初の事業及び活動報告のライフアップ推進事業の中で「パパ応援企画」とありますが、昨年度のコロナ禍において産婦人科などで行っていた「パパママ学級」がほぼ中止になっている状況でよくこれだけの人が集まったなと思ったのですが、そのあたりの苦労話があればお願いします。

六郷公民館主事： 細かい話をしますと、元々六郷公民館ではベビーマッサージの講座を年2回開催しておりました。なぜかと言いますとベビーマッサージは生後2ヶ月～8ヶ月の子どもが対象で、対象の年齢期間が6ヶ月しかないので、2回行わないとカバーできないということで、年2回行っておりました。前半のベビーマッサージはコロナ禍で中止になりまして、後半はコロナが少し下火になってきていたので開催することができました。その際に講師との話で他の公民館ではパパも来ているということを知り、それではパパと子どものベビーマッサージをしようということで開催することになりました。実際、パパ応援企画のベビーマッサージは例年開催しているベビーマッサージ講座に参加したママがパパの分を申し込んで参加していただいています。セットのような形で申し込んでいただいたというのが実情です。

市議会選出委員： 実際身近なところで妊産婦がいたものですから、講習を見つけていたら全然見つからないということで、健康課が行っている事業も申込しようと思ってもすぐいっぱいになってしまうので、参加できないという話が随分ありました。公民館の講座の情報は地域の回覧ぐらいでしか目にする機会がないと思うのですが、そのあたりの工夫はどのようにされていますか。

六郷公民館主事： 実情としては、ベビーマッサージの講座に来る方は地域外の方が結構多く、その情報は、たかさき子育て応援情報サイト「ちゃいたか」からまなび

ネットにたどり着いて、公民館講座を見つけることが多いようです。子育て関係の講座はこのルートが多いようです。

公募委員 A： 主な事業紹介の中の「町探検！もっと知りたい私たちの町」がとても素晴らしいなと思いました。状況が変わってきている中で、それに合わせて行っているということは公民館で工夫をされているのだなと感じております。それに関連しまして、本日の資料の中に「六郷散歩」というリーフレットありますが、こちらも見せてとても素敵なものができているなと思いました。こちらのリーフレットはどのようなところに配付をしているのか教えてください。

六郷公民館長： 六郷小学校の全児童に1部、地区の全世帯に1部配付させていただきました。この原稿については、公民館運営審議会の提言を基にしておりまして、各町内会から編集委員を出してもらって作りました。

公募委員 A： なぜお聞きしたかと言いますと、素晴らしいものなので、ぜひ図書館にも置いていただきたいなと思いました。やはり地域の方々に知ってもらうことが一番だとは思いますが、高崎市では高崎学検定というものもありますし、郷土の歴史に関心を持っている方もたくさんいらっしゃいます。そういった方々が情報にたどり着く方法としては例えば図書館などに置いていただくと更に良いのかなと感じましたので、質問させていただきました。ぜひこのようなパンフレットが出来ましたら、地域を越えて、情報がたどり着きやすいところに配付することをご検討いただけるとよろしいかなと思いました。

観光ガイドの会選出委員： 今の話の関連で、お聞きします。このようなパンフレットは各地区別にかなり作成していますが、各地区のパンフレットをまとめてどこかに置いておく場所、例えば中央図書館のコーナーなどがあるのでしょうか。もし今までのご経験で分かれば教えてください。もしくは公民館経由で図書館の方にお聞きしていただけると良いかなと思います。

中央公民館長： 昨年度、大類や倉賀野、岩鼻、豊岡地区などでマップを作られていまして、最近マップ作りに取り組まれている地区が多いので、地区外の人にも地域資源を知っていただく機会として中央図書館に声を掛けてみます。

会長： 各地区の特長を持った資料を作成した場合に、それを高崎市民全体で活用できるようにするためには、ひとつ図書館に集積するという案が出てきました。このマップは審議会の提言が基になっているということです。その時の審議会

の提言を作成されました前会長さんがいらっしゃいますので、これを見て何かご感想があればお聞かせください。

学識経験者 A： 提言を現実に向けて活用して下さった最初の事例ではないかと思っております。審議会では2年ごとに答申を出していますけれども、その内容が私たちの目に見える形で生きたと感じたのは初めてでしたので、大変うれしく思っております。提言の活用方法は色々あると思います。地域資源の発掘の方法も学校と連携して行うということはなかなかできることではありません。それが学校のカリキュラムとうまく連携して実現させているということは持続性があるということです。公民館の職員が変わっても学校の先生が変わっても継続してできます。そういう意味で持続可能な良いプロジェクトだと思います。

それからこのマップは寺社が中心になっていますけれども、もっと子ども達の間から見て不思議だなと思うことがたくさんあると思いますので、次には子ども達と一緒に回って、子ども達の間から見た地域のお宝を探してもらって「私たちはこんな見つけたよ」と発表できるようなプロジェクトが将来できると良いなと思いました。色々な活用方法があるので、継続して行うと地域の人にとっても新たな発見がありますし、子ども達にとっても自分で地域の良さを探ることが出来て地域を誇りに思うような人材が育つのではないかと思います。

このコロナ禍でその第一歩を歩むことが出来たのは、館長と主事さんのリーダーシップと地域の方々の協力があってこそだと思います。

会長： ありがとうございます。

では、この地区が地元の副会長さんはどうですか。

副会長： 今の話に付け加えさせていただきますと、六郷公民館長さんと主事さんは本当によくやっているなと思って感謝しております。全世帯にマップが配られたということが非常に良かったと思っています。私は学童保育所を運営しております、そこの学童保育に来ている子ども達が「地域を知ろう」という夏休みの宿題を持ってきまして、一緒に持ってきたのが世帯に配られたこのマップでした。各世帯に配られたものが無駄になっていないなと感じました。このマップを作成するための地域の皆さまのご苦勞を良く知っていますけれども、各地区でこのような取り組みができるといいなと思いました。また、難しいですが子供が分かるようなものがあるといいなと思いました。

これは事業の話とは逸れてしましますが、六郷公民館長さんと主事さんにお伺いします。六郷公民館もだいぶ老朽化してきていますが、この公民館の使いづら
い点、もし新しい公民館ができた場合にこんな風にして欲しいなど思っているこ

とがあれば聞かせてください。

六郷公民館主事： 今、皆さんのいるホールが一番広くて利用率が高いのですが、2階にあるために足の悪い方など大変な思いで上がってきます。というところから一番広くて人が多く集まれる部屋は利用率の高いので、そのような部屋は1階に造っていただくのが良いかなと思います。

会長： ありがとうございます。

先ほどから地域における学校との連携ということが話題になっています。私たちの審議会には、小学校長会から選出された委員さんがいらっしゃいます。地域と学校、あるいは公民館と連携するにはこういったことがポイントであるということがあればご意見をいただくとありがたいです。

小学校長会選出委員： 感想のような感じになってしまいますが、お話をさせていただきます。

今年度から八幡小学校に勤務しておりますが、周辺地域のことを知らなかったのだなと感じる半年でした。前任が八幡中学校だったので知っているつもりでおりましたが、まだまだ知らなかったんだと痛感しております。

小学校2年生の道徳の授業で「ひかり小学校の自慢はね」という教材があります。最後に「校長先生に聞こう」という部分でこちらが入って行くのですが、その2年生の授業に私が参加して「八幡小学校の地域を」という部分をお話しするネタを集めるために地区の公民館に駆け込みました。公民館に行けば地域の方と学校がつながる場所なので大変助かりました。それぞれの地域の歴史などは案外分からないもので、八幡地区は二つの大きな川に挟まれており、最初はその二つの間の村には「川間村」という名が付いたそうです。明治時代のことでしたが、地域の方々は取ってつけたような名前は嫌だということで県に反対したそうです。それで昔の「八幡村」に名前が変わったということを地域の方に聞きました。そういった地域の誇りやプライドを持って反対したという話を2年生の子ども達に話したら、彼らが「僕も取ってつけたような名前は嫌だ」と言っていたということがありました。それは私が公民館に立ち寄りなければ分からなかった歴史の話でした。こういうように人がつながって学校の教育課程に組み入れるということは学校現場では難しく、点と点をつなぐような形で苦労しているところがございます。六郷小学校は先ほどのお話にあったように、カリキュラムに組み込んで教育課程上に編成しながら、がっちり公民館と連携して町の良さを経験できたことが素晴らしいなと感じました。

今、学校が未来永劫続くための授業を作り出すことは人も変わりますし大変で

す。公民館も同じで、人が変わるとは思いますが、そういった時にどういうふう
に持続可能なプログラムをつなげていくのかということが、学校も公民館も、ま
た地域もこれから大事になっていくのかなと今日は感じました。

色々勉強させていただきました。ありがとうございました。

会長： ありがとうございました。

学校は、地域とのつながりを大変重要視していると思いますが、現実的にどう
動くかということになると大変難しい面があると感じます。

先ほど、もし公民館が新しくなったら、というお話の中で大きな部屋は1階に
してほしいとのこと、これから高齢化社会になっていきますので使い勝手が良い
部屋、また公民館によっては簡易なエレベーターを設けているようなところもあ
ります。今後そういうことも視野に入れながら改築や新築が求められるかなと思
います。なにぶんにも議会で予算が通らないといけないわけですが、私たちの審
議会には市議会からの選出委員さんもいらっしゃいますので、審議会の委員とい
う立場ではございますが、個人的な意見でも結構ですので、その辺りはどうお考
えでしょうか。

市議会選出委員： 私の地元の新高尾公民館は古さからいったら2番目か3番目くらい
になるかと思います。正直な話をしますと余程耐震に問題があったり、この部分
に危険性がある等、そういったことがないと公民館の建て替えまで話が持って行
くことはできないだろうかなと思います。東部公民館が新しくなって、八幡公民館
が新しくなって、そこから先の計画はどこからも聞こえてこない状況になってい
るのが議会側としての実情です。ただ、建設して50年近く経つ公民館ばかりが
増えてきます。小学校中学校の建て替えが、外壁補修に変わってきています。耐
震も含めて行っていますから70年～80年近く現在の校舎を使う方向になっ
ていますので、もしかすると新しい建物を建てるというところから利用者の利便
性を考えて、構造上可能なところでエレベーターを設置する、といった方向に舵
を切らないと現在においては新しい公民館はできないのかというのが正直なと
ころです。とは言いましても政策的に利用者が多くいるようなところは利便性の
向上ということは追求していかなければと思っていますので、何とか突破口が欲
しいなと思っています。そのための議会側からの参加であると思っていますの
で、よろしく願いいたします。

会長： ありがとうございます。

私たちは公民館の職員ではないので、日常的に公民館のことを承知しているわ
けではないのですが、このように審議会で各地区を回らせていただいて、地域の

活動の様子を伺うと、素晴らしいことをされていることがわかります。一般的には知られていないけれども、その地域にとっては非常に濃厚な活動をしているということがあるからこそ、その地域は保っているということがあります。高崎市は旧高崎地域でしたら小学校区に1つ公民館があり、したがって地域社会は公民館もっているとも言えると思います。

今日は六郷公民館の大変ユニークな活動を伺いました。他に意見のある方はいらっしゃいますか。

箕郷地区選出委員：今日はありがとうございました。六郷公民館が小学校と連携して進めていただいたことは大変ありがたいと思います。実は私は六郷小学校にお世話になっていた時期がありました。六郷小学校は郷土資料室というものがあまして、昔の民具や資料などが展示してあります。子ども達は校内では長年学習してきましたが、外に出て学習するとなると人手が不足していたり、安全の問題もあります。そんな状況の中で公民館から声を掛けていただき、このように出来たのはタイミングも良かったのかなと思います。それぞれの公民館でこれから地域資源を生かして行くには、学校の方にどんなニーズがあるのかを汲んでおくとても上手くいくのではないかと思います。

そういう意味では六郷公民館の取り組みは公民館と学校の両方のベクトルが向き合ったのかなと思います。このような形で他の地域でも広がってくればありがたいなと思いました。

会長：ありがとうございました。

それでは、本日まだご発言をされていない委員さんも一言いただければありがたいと思います。一人3～4分で、お願いします。

ユネスコ協会選出委員：素晴らしい活動だなと思いました。

「持続可能な社会の担い手を育成する公民館活動」というキーワードが思い浮かびました。そのために何をするのかという話が印象的でした。一つに地域のあり方としては、地域で魅力ある活動している住民の存在が必要だという言葉にはっとさせられました。今日六郷公民館に来て私も学び続けなければいけないなと思いました。

また、公民館側の視点からすると、公民館と学校の想いが一致しているということも良かったかなと思います。

今日は自分も勉強する良い機会となりました。ありがとうございました。

区長会選出委員：私も今日は色々なことを勉強させていただきました。言いたいこと

は皆さまが発言してくださったので、少し違うことを話させていただきます。

本日の発表の中にも、コロナによる影響の話が出て来ましたが、今は感染対策、感染予防を最優先にしなくてはなりません。しかし対策や予防も大切ですが、区長会でも地域から感染者が出た場合にどうするかという話をしておりまして、その時に私たちは何がしてあげられるのか考えてみました。感染した人の家族は買い物にも行きづらいでしょうし、それを助けるために電話で必要なものを聞き取り、買って届けるということはどうだろうと私なりに考えました。今後区長会でも町内で助け合う方法を考えなくてはならないと思っています。

倉渕地区選出委員： それでは今日の感想と私が倉渕地域選出なのですが、私どもの活動と一部共通していると感じましたのでお話させていただきます。

地域との連携は非常に大切で、その連携を取るのがとても難しいと感じております。六郷公民館の取り組みは本当に素晴らしいと思って聞いておりました。特に私どもでは地域と学校と公民館が連携した行事が、最初は小さく始まったものが今は町内全体で盛り上げるようなイベントになっております。それは「道祖神の里めぐり」というものですが、これは町内だけではなく高崎市全域から参加していただき、大勢の方々に来ていただきましておりまして、連携行事として成功している例ではないかなと思います。学校との連携として、中学校の生徒さんを案内役になっていただいて道祖神の説明をしてもらっています。案内役ですから中学校の生徒さんにも勉強していただいて、連携という意味では非常に良い取り組みとなっております。

また、六郷地域では「六郷散歩」というマップを作られていますが、私どもでは地域づくり活動協議会、区長会が中心になりまして1～8区まである各地区で地区ごとにウォーキングコースをパンフレットにして配付をしています。これも地域の方に興味を持っていただいてなんとかうまく進んでいるように思います。

道祖神の里めぐりは昨年度から今年度にかけてコロナの影響で中止になってしまって残念に思っておりますが、六郷公民館につきましても、大変な部分もあると思いますが、学校との連携を充実したものにしていただければ良いなと感じました。

群馬地区選出委員： 今日のお話しで一番感じたことは、コロナのことに関してのことです。昨年度からコロナの感染症拡大防止のために会議が中止になり、特に町内の集会所では今まで色々な団体が活動していましたが、集会所の利用ができなくなって地域活動が難しくなりました。そういった時に町内の集会所は難しかったのですが、地区公民館に関しては利用できたのでそこが最後の砦かなと感じました。町内の集会所と違って地区公民館は職員の方がいらっしゃいますし、衛生管理が

できる点も安心です。やはり公民館は地域活動においては重要だと思いました。桜山小学校区には公民館がなく、堤ヶ岡小学校と一緒に利用している状態ですので、いずれは公民館が欲しいなと思います。

地域活動に関しては、今年度に関しては活動する内容があまりないなという感じですが、今年度は防災イベントをすることになったのですが、防災イベントを開催しても運営側のイベントになってしまって、地域の方を広く集めることができないためにこのような形となったところがあります。マップ作りであれば、色々コロナ対策を取らなければいけないこともあります。以前勉強させていただいたことを踏まえてコロナの時代だからこそできるといいなと感じました。

学校との連携ですが、私の子どもがまだ小学生の時、小学校で「私達にもできるボランティア」という内容でボランティアの活動内容を学校の中で紹介するというのを毎年行っていました。これは地域の方々も参加させてもらって、子ども達と交流を持っていました。今日の小学校の話聞いていて、地域の人にとっても学校と交流が出来ることはとても魅力的だと思いました。

新町地区選出委員： 前会長さんと六郷地区や南八幡地区を探検しながら活動を進めたことがこうして形になったというのは大変嬉しいことだと思いました。発表の中で「公民館が仲人の役割をする」「地域を支援する役割が公民館」とおっしゃっていたのがとても力強いなと思いました。そのためには社会資源がなければ資源と資源をつなぐ仲人役が出来ないということなので、歴史的なものもそうですが、人材的な資源といったことが、今居場所づくりとして動いていますので、そういったマンパワーの資源も作れるように私たちも頑張らなくてはいいなと思いました。

また、ニーズ調査を行って、それによってこの活動を始めたところが素晴らしいなと思いました。ニーズ調査して、課題を確認して、どのような方向で行うかといった段取りを踏むことをとても丁寧にされていたので、そのことが今の活動につながったのだと思いました。ありがとうございました。

榛名地区選出委員： 私は3月まで榛名地域の町内会で区長をしていました。六郷散歩のマップを見まして、榛名地域には様々な地域資源がありますが、このような立派なマップが出来ていません。できればこれを参考に作ってほしいなと感じました。

また、久留馬公民館の新しい情報としましては、地域づくりの関係では答申の内容に関する活動について取り組みを始めました。

そして久留馬公民館では、地域を紹介したいということで、高崎経済大学の学生さんと久留馬公民館が連携して「くるっとまるっとチャンネル」という動画を

YouTube で配信しています。今回5回目を配信していますので、久留馬地域のことに興味がありましたら見ていただければありがたいと思います。ありがとうございました。

公募委員 B： よろしく願いいたします。

日頃よりスマートフォン教室等で各地区公民館にお邪魔させていただいているんですけども、今回公民館の事業を見ることができて有意義な時間でした。普段から夏休みに子どもの体験プログラムをNPO 法人で行っていますが、今回の六郷公民館の取り組みがすごくよくできているなと思いました。特に地域の紹介の作成の流れを丁寧にならされていて、自分達も小学生と交流するものですからどういうふう子ども達に伝えていくのかいつも議論になるのですが、そこが上手にまとめられているなと感じました。やはり子ども達に教えた経験のない方がまとめようとするとなかなか伝わらないものになってしまいがちなところを、そういう点について工夫されていたのではないかと思います。

実は他市の公民館運営審議会委員もさせていただいております、どこの市町村でも学校と公民館との連携が必ず今、テーマになっております。高崎市は六郷公民館の事例を見る限りすごく進んでいるなというのが印象的でした。立地的に六郷公民館と六郷小学校が近いということもあると思いますが、結構公民館と学校と連携を取りながら、打合せを行いながら進めたのでしょうか。

六郷公民館主事： 今回の事業がうまく進んだ理由としては、中央公民館の教育担当に学校から出向している教員職の職員がいます、その方と学校連携について自主研究したことがきっかけです。その方がいなければこの形にはなっていなかったと思います。

公募委員 B： とても良い取り組みだと思いました。中央公民館の教員職の方は常にいらっしゃると思いますので、ぜひそこをハブにして各公民館と学校とをつなげていただければと思います。ありがとうございました。

会長： ありがとうございました。それでは本日の議事を終了し、議長の座を降ろさせていただきます。皆さまのご協力ありがとうございました。それでは進行を事務局にお願いします。

報告・連絡事項

事務局： ・高崎市公民館研究集会について（第3回高崎市公民館運営審議会）
・前回審議会の会議録及び議事録について

閉会

事務局： それでは以上をもちまして、第2回高崎市公民館運営審議会を閉会いたします。皆様、大変お疲れ様でした。